

～ひだまり～

3年3組 学級目標

日進月歩
～全員で、全力で～

第3学年だより

第 36 号

作文特集号「学芸発表会」～3組～

学芸発表会が終わってしばらく経ちますが、素晴らしい作文がまだたくさんありましたので、ご紹介いたします。それぞれの思いをお楽しみください。今回は3組の作文を紹介します。

「最高の集大成」

「ああ、楽しかったな。」

これが、部活引退前最後の演奏の最後に胸を張って言えることだった。

その日の朝は寒く、雨が降っていた。そう、その日は3年生の私たちにとって最後の学芸発表会であり、それと同時に私の3年間の吹奏楽部での活動の集大成となる演奏が行われる日でもあった。他団体の発表に心を躍らせながら、あっという間に過ぎていった。とうとうやってきた3度目の休憩時間。私は急ぎに急いで準備をした。

準備が終わり、照明がふっと落ちた。同時に私はこれから始まる演奏への期待と少しの不安があった。遡ること1日前、本番同様に体育館で通し練習をしていると、1曲目中盤にある私のソロで派手に音を外してしまった。前にも同じようなことがあったので、本番でもそのことが少し不安だった。しかし、実際には自分のソロでは自分がやりたい音楽をやると決めていたので、私の中では不安よりも期待のほうが大きかった。

1曲目が始まり、もう私の中の不安はやがて消え、自然体で音楽を楽しむことができた。そして、私のソロがやってきた。3年間お世話になった楽器でちょいっとスライドを動かし、大きなブレスをした。私の音は体育館中に響き、とても納得のいくソロに仕上がった。ソロが終わった後のお辞儀をしながら、楽しかったこと、いろいろあった3年間を、もう悔いはないと思える自分に成長することができた。

あの時に味わった景色、空気感を今でも鮮明に思い出すことができる。あの光景はこの先の受験期に入っても忘れることはない。今年の学芸発表会は私にとって最高の集大成だったと言えよう。

裏面にも、もう1作品を掲載してあります。そちらも併せてご覧ください。



「学芸発表会での気づき」

私は毎年行われる行事ごとが好きです。どの行事にもいろいろな係があり、そして人がいるからこそ成り立っています。私は毎年、学年実行委員に入っています。初めて実行委員になったときは、何をするんだろう、大変なのかなと不安な気持ちもありましたが、毎年続けていくうちに実行委員の活動は楽しいと感じるようになりました。今回はキャップの展示や短冊、漆器を並べる作業など、さまざまなことに取り組みました。嫌になる程大変な日もあり、帰りは疲れきっていることもありました。遅い時は夕方6時ごろまで残り、作業の区切りが悪く終わる日もありました。でも、展示物を全て並べ終えたとき、過去を振り返るとなんだかんだ楽しかったと思うことができました。

毎年恒例だった合唱がなくなり、今年は合唱コンクールになりました。学年全体で協力する場面が少なく、少し寂しい気持ちになりましたが、それでも学年の仲は深まつたと思いました。なぜなら、分からぬところを教えあったり、一緒に作業する場面が増えたりしたからです。

学芸発表会は人がいるから成り立つ行事だと思います。だから、実行委員や発表者だけではなく、一人一人が主人公です。作品を出す人がいて、発表者が工夫をして会を盛り上げ、そして観客の人が反応してくれることで、楽しく思い出に残る発表会になるのだと思いました。

3年生にとっては最後の学芸発表会でしたが、各学年や実行委員の工夫によって、とても楽しく心に残るものになりました。私は実行委員として、準備や協力をする中で、クラスや学年の仲がさらに深まつたと思いました。

学芸発表会を通して、協力して作業をすることで仲が深まり、楽しく終えることができるという事に改めて気づきました。この経験を活かし、高校に行っても行事の実行委員に積極的に参加していきたいと思います。

【担任の先生から】

3年生最後の学芸発表会でした。文化部の皆さんにとっては最後の発表となり、感慨深かったことと思います。実行委員も、3年生はここまで動けるのかと感心することばかりでした。3学年代表で舞台に立ったのは2班だけでしたが、全ての班が修学旅行の探究学習で、3年生らしい学びを発表していました。先輩から学び、後輩に伝えていく。こうして瑞三の伝統が継承されていくのだと実感できた学芸発表会でした。自分たちの受け取ったバトンを握って走り切り、後輩に伝えることができた皆さんは本当に立派だったと思います。

